

昭和55年1月25日  
発行所 東茨城郡 茨城県内原町鯉淵5965  
鯉淵学園同窓会 印刷所 双葉印刷

# 会長再選にあたって

和田文雄

さる十一月三日の同窓会大会におきまして再び会長に選ばれましたのでご挨拶申し上げます。

この大会では、同窓会館建設のしめくりをし、募金事業を終了することとしました。

募金を長期間にわたり推進してこれらた支部の皆さんには本当にご苦勞様でございました。また二十万円にのぼる資金に応募された一、五四四人の同窓生の方々に心からお礼を申し上げる次第です。会館建設にあたって、当初の計画が完全に行きまず、会館の規模を縮小しましたが、同窓生の真心がこもった会館として立派に出来上り、学園への来客、外来の講師、そして同窓生が快適に利用していることはこの目的を達したものでいえましょう。

この建設費に昭和三十年以来、積立て

てきた特別会計の二千八百二十九万円を繰入れさせてもらいました。

これからも新規同窓生からも積立ては続けてゆきますが、この特別会計資金は同窓生の基幹的性格と運動資金の役割をもつていたのでさらに拡充してゆきたいと思えます。

その拡充の方法として今後とも同窓生からの寄付を積立て、同窓会館募金を打ち切りましたので会館への募金をしてもよいとの気持ちの方々が「会館募金」として納付したときこの特別会計に繰り入れることといたしますのでどうぞ今からでも「私たちの会館への募金」を送って下さい。

もう一つは、会館周辺の造園は資金の都合がつかせませんでしたので手をつけられませんが、これは同期会が開られたとき期別の意志で造園向けの樹木、

庭石等を直接又は購入代金として寄付して戴くということです。

昔からの米賓宿舎を含めて約一、〇〇〇平方メートルの敷地がありますので期別ごとの記念の樹木その他が植えられることもよい記念となるものと考えられますのでよろしくご協力をお願いいたします。すでに九月に開られた五期生の会から五万円円の寄付を戴いています。

大会では、会費の納入状況について前々大会に引継いで議論が集中されましたが、大会ごとにすべて未収の会費は打ちきつてしまう方法をとっていますのでその事業年度ごとの収入を頼りに同窓会の運営を行ってきていますが、これは同窓会活動の充実発展のため強力な活動がしにくいわけでありました。

また、その年度に納入しなければ、それでもう納入しなくてもよいというものでもありませんが、発足以来の未収金を計上してみても金額は巨大になるかも知れませんが、収納のメドが確実ともならず、その収納も困難なものがあります。

現在、会費納入は八〇〇人で二十％位でありませんが、全会員が一人のこらず延滞もせず、完納されるような魅力ある同窓会としなければならぬのであります。ところが、この際会費の納入が先決であるうと考え全会員が一人のこらず納入して下さるようお願いいたします。

また、県支部単位に一括納入の方法をとっている福井県支部の例も前々からご紹介して各支部でその方法をとって下さ

るようお願いしてきましたが、これも全支部の一括納入は大変なご苦勞がいるものと思えますが、支部一括納入が実現するためには支部の活動がより活発に行われることが必要でもありません。ところが、昨今支部会を一泊計画で実施すればかなりの経費を必要とするため、支部会に参加した人の負担も多しと思えます。しかし支部の会合のときは必ず本部会費を集めて戴き本部へ納入して下さいようお願いいたします。そして支部会の際は必ず学園本部からも参加して交流を深めてゆくようにすることが大切であります。

最近の学園は常時三〇〇名をこす学生で活気にあふれ、同窓大会のときは、文化祭が学生によって行われ、また農場の農産品も原価(?)で販売され近くの人たちが家用車で求めてくる風景がみられました。

夜にはファイヤーストームで同窓生が学生と一緒ににぎやかなときをすごしました。

来年度の学生募集もはじまりました。同窓生と何らかの係りをもつた入学生が増えていきます。是非優秀な希望者を送りこんで下さい。

今後、二年にわたり大会で選ばれた東部役員一同、努力して、活動を行ってゆきたいと思っておりますので何卒、特段のご協力をいただき、同窓生の扶助と学園の発展を期してゆきたいと存じます。

# 第十四回

## 同窓会大会報告

去る十一月三日、鯉淵学園同窓会館において、第十四回同窓会大会が開催されました。

十四時十五分開会、初めに会長挨拶、続いて学園長に代わり近教授の祝辞、学園文化祭の招きで来園された、故秋浜前学園長夫人から、祝辞とお礼の言葉をいただき、議長に東京支部の石田善吾氏（十六期）を選出して議事に入りました。今大会は、開催の連絡がおくれたためか、参加者が予想を大巾に下回る状況でありました。そのため、盛り上がりを感じたことはいなめませんが、濃密な審議が展開され、最後に和田会長を再選して、十七時十分閉会しました。

特に審議の過程で問題になりましたのは、同窓会活動の根幹でもある会費の納入について、執行部からすれば、如何に徴収するかでありました。昭和五十三、五十四年度に納入された会員数は、約八百名で、納入率は約二十%と低く、高めるための方策として、支部の一括納入と現付金の交付、終身会費制度と基本金の高積立で、その他いろいろ論議されましたが、これといった決め手はなく、今回も検討課題として執行部にあげられました。

また、鯉淵学園に永年動続（二十年以

上）し、私達のために尽力され、定年退職された職員に対し、記念品を副えて感謝状を贈ることが大会で決定しました。これをうけて大会に引続いて開られた小沼四郎、森谷権之助の各氏に対し、感謝状と記念品が和田会長より贈られました。

第十四回同窓会大会において承認されました、昭和五十三、五十四年度事業報告並びに決算報告、可決されました昭和五十五、五十六年度事業計画並びに予算、選出されました昭和五十五、五十六年度役員は次の通りであります。

### 一、昭和五十三・五十四年度経過報告

昭和五十二年四月十五日の第十三回同窓会大会の決定に基づいて、実施いたしました両年度の事業並びに決算報告は、別紙二・三の通りです。

今両年度は、第十三回同窓会大会が同窓会館の落成との関連で、半年を経過した四月に開催されたこともあって、事業の中心は、記念事業を継続して目標の達成にあり、具体的には、募金を継続して「未払金の支払と庭園の整備並びに会館内部施設を充実させる」にありました。

結果は、記念事業の一貫として、庭園の本格的な整備はできなかったものの、会員各位の御協力により、未払金の支払を済ませ、会館を利用する上で欠くことのできない暖房機を設置することができました。

昭和五十一年度以降、取組んでまいりました記念事業のうち、同窓会館の設立については、既に御報告いたしました通りであります。既に御報告いたしました通りであり、記念事業の一つとして先行実施に踏み切った、民芸館設立に伴う民具の収集については、学園の諸施設改善計画のうち、本館建設が大巾に延び民芸館の設立は見通しも立たない情勢から、消極的にならざるを得ませんでした。記念事業に御協力いただきました会員各位の皆様に対し、記念品等証を立てるものの配布することもないまま、本事業に終止符を打つことに深い御理解をお願いする次第です。

会員名簿の訂正補完版の発行については、記念事業とも絡んで次年度に送らざるを得ず、鯉淵学報についても、発行所である学園の体制がととのわず、お届けすることができませんでした。学園に対する協力事業については、学生募集、就職の斡旋、学生の学外研修等に協力し、高い成果を上げております。また、学園の補助金、寄附金の要請等對外交渉にあたっては、東京支部を中心として、側面的支援を実施して来ており、全国に働く同窓の御活躍の情報も方あって大いに役立つているものと確信します。

### 二、昭和五十三・五十四年度事業報告

#### (1) 会報の発行

第25号 昭和52年12月15日発行

第26号 昭和53年7月15日発行

第27号 昭和53年12月20日発行

#### (2) 支部会への役員派遣

群馬支部、東京支部、新潟支部

#### (3) 三十周年記念事業

募金を継続し、建築費未払金の支払暖房機の設置 七台

#### (4) 学園への協力事業

学生募集への協力

学外実習、見学旅行への協力

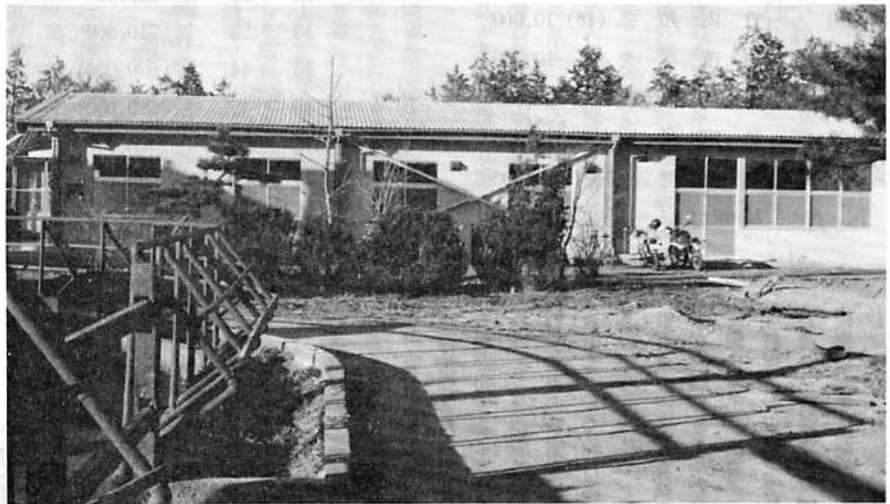
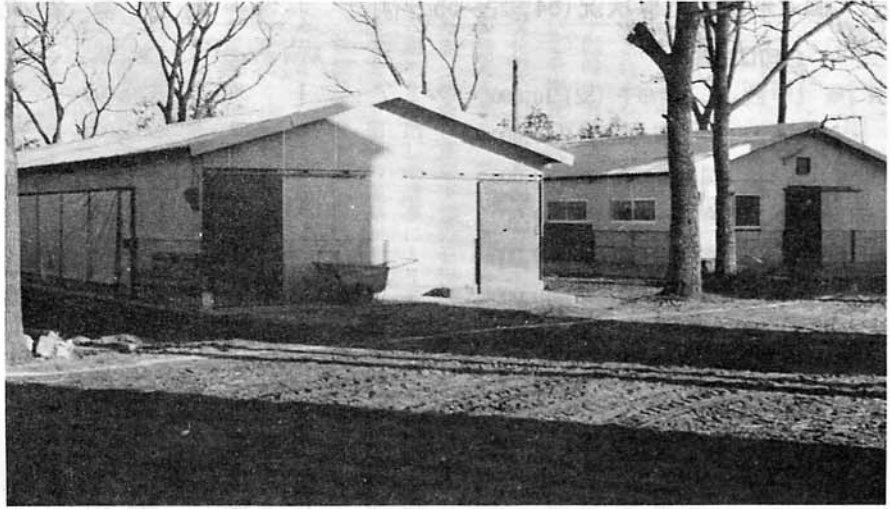
就職の斡旋

学園の對外交渉への協力

### 鯉淵学園

#### 奨学金制度の拡充

学園奨学金制度は、基金百万円でスタートし、その後、故清水由之氏（滋賀31期）父兄より八十方、生吉達男氏（神奈川17期）三方の御寄付をいただくなどして運営されて来たが、昨年東郷会長より二百方川、故山添理事長の御家族より百万円の御寄付をいただき、高速度路用地譲渡基金の一部七百万円の計一千一万円を基金に加えて奨学金制度が拡充された。



酪農場に新築された豚舎（上）と現場教室（下）

ように基本金の助を借るわけにまいりません。

前年度並の今費納入状況が続くとしたら、持ち越した会員名簿の整備はもとより、会報の発行も困難になることが予想されます。

仕事の合い間を縫って、同窓会費の送金は大変です。名簿をくると同一職場、近隣と想像される同窓が目につきます。こうした関係にある場合、是非話し合いをしていただき、グループ毎の送金をいただければと思います。平素は同窓会など気にもとまらない、会報を手にしても一日延ばしにしがたがて忘れる、これが現実だとは思いますが、今回は、特段の御配慮をいただき、必ず納入下さるようお願い申し上げます。

### 一、会報原稿投稿の依頼

記念事業に取組んでから今日まで、会報の内容が、募金のお願いや事業の進展状況に終始し、支部だよりとか、会員からの原稿が遠のきました。今後は、編集方法を検討し充実した会報にいたしたく思います。それには皆様からの投稿が第一、進んで御協力下さるようお願いする次第です。

先に、秋田支部の小嶋氏から、佐々木紘一（十五期秋田）氏が町議に当選したので、会報に載せていただきたい旨の連絡がありました。別にも、湯沢隆夫（一期栃木）氏が県議に、後藤功一（九期茨城）氏、佐藤良和（十三期長野）氏がそれぞれ町議に選出されたとの情報もあり、全国的に調整すると相当数にのぼることが予想され、次号あたりに、まとめて紹介したいと考えております。各支部におかれましては、これらについても御一報をお願いする次第です。

### 九期生へのお願い

一部の同期生には、九期生名簿の作成をしたい旨の連絡を、年賀状を通じていたしました。卒業二十五周年を機に実現をはかりたく思います。内容は単に住居職業のみにとどまらず、家族構成や職業の内容まで記載できればと考えます。

具体的には、茨城在住の諸氏に募集いただき検討する予定です。御意見を鯉淵学園高橋隆三宛お寄せ下さい。

## 事務局だより

### 一、会費納入について

昭和五十三・五十四年度の会費納入状況は、近年にない低い納入率を記録した

しました。納入会員数は八百名となりましたが、そのうちの二百名は、新卒業生で、これを除外すると納入率は十五％程度になります。

本会の事業推進にあたって、大きな役割を果たして来た基本金会計も、記念事業への支出によってわずかな金額となり、増資が現実になるまでの期間は、今迄の